

有権者である大学生を意識した全学共通選択科目 「総合的な学習」の授業の試み

Attempt to teach the class of "Integrated Studies", an General Education Subjects Common
to All Divisions with University Students as Voters in Mind

鎌倉 博 KAMAKURA Hiroshi

1. 本稿の狙い

2016（平成 28）年の教育職員免許法の改定に伴い、2017（平成 29）年には教職課程のコアカリキュラムも改訂された。その際に、必修科目として「総合的な学習の時間の指導法」が新たに指定された。「総合的な学習の時間」の意義が認知されてきたと言える。これを受けて、本学でも 2020（令和 2）年度から「総合的な学習の時間の指導法」の授業が開設される。

しかし、今回ここで論考する授業科目「総合的な学習」は、「大学が独自に設置する科目」としての全学共通選択科目の 1 つである。すなわち、免許取得のための必修科目ではない、教養科目的な位置づけである。

筆者は、2017（平成 29）年度に開設された「総合的な学習」とともに、2020 年度より「総合的な学習の時間の指導法」も合わせて担当することになった。そこで 2 つの授業の性格分けが必要であると考えた。後者では、どの学校でも取り組まれる学習題材で「主体的対話的で深い学び」を児童・生徒が展開していけるような指導法の教授に重点を置くことにし、他方前者では、高等学校までに学生自身が体験してきた「総合的な学習の時間」を、有権者である大学生にふさわしい内容と展開で、改めて体験してみることに重点を置くことにした。

本稿では、その「総合的な学習」において 2019（令和元）年度取り組んできた学習を振り返ってみることで、現代学生が何をどのように現代社会を捉え考え発信したいと考えているのかを考察すること、また、そうした学習に導くことは少なからず有権者としての自覚を高めていくものになり得るとの仮説の上で、実際にどうであったかを検証することに試みたい。

2. 本学における「総合的な学習」の試み

(1) 第 1 回授業での学生への説明

以下は学生にガイダンスした内容である。なお、本授業は今年度で開講 3 年目であるが、以下のスタンスはほとんど変わっていない。

① 授業の目標

①現代の日本及び国際社会に関心を向け、特に問題にすべき点について、ともに調べ、

話し合いながら、自分なりの解決策を考え、発信できる力量をつける。

② 18歳選挙権を積極的に行使できる主権者となるための教養と、社会を見つめる視点を獲得する。

③ 小学校・中学校・高等学校教員を目指す学生にとっては、「総合的な学習」を本格的な総合学習として展開できる教員になるための授業イメージをつくる。

② 授業の概要

① 前半は、授業者が小学校教員として取り組んできた「総合学習」の実例を紹介しながら、「総合的な学習」が目指す授業のあり方のイメージ化を図る。

② 後半は、実際に現代日本及び国際社会で今問題にすべき課題に焦点化し、実際に各学生が探究・研究し、最後に各自が発表し、批評し合う。そこでの批評においては、授業者も学生も対等である。各学生の見解に授業者が「正答」を押し付けるようなことはしない。

③ 教材

① テキストとして鎌倉博著『きらめく小学生』（合同出版）を用意して下さい。

② 資料を閉じたためておくことのできるA4縦フラットファイルを用意して下さい。

③ 教員志望の学生には以下の本を読むことを勧めます。

- ・ 小学校 中野光他編『あっ、こんな教育もあるんだ』（新評論）
- ・ 中学校 森下一期・田中伸子編『中学生の学びと総合学習』（旬報社）
- ・ 高校 森下一期編『高校生の総合学習と学び』（晩聲社）

④ 評定

① 欠席が6回以上あった場合はその時点で単位修得放棄と見なします。

② 「ミニレポート」	最高 60 点（各回最高 5 点）
「探究レポート」	最高 30 点（内容により評定）
「レポート発表・質疑応答」	最高 10 点

③ 再テストは行いません。

(2) 2019 年度の授業展開

	シラバス	実際
第1回	「総合的な学習の時間」とは	「総合的な学習の時間」とは
第2回	授業事例①（地域の特産品）	授業事例①（地域の特産品）
第3回	授業事例②（人間生活と自然環境）	授業事例②（人間生活と自然環境）

第4回	授業事例③（被災地の復興）	授業事例③（被災地の復興）
第5回	授業事例④（戦争の歴史と現代の平和）	授業事例④（沖縄に見る戦争の歴史）
第6回	授業事例⑤（近隣国との友好・親善）	授業事例⑤（沖縄に見る米軍基地）
第7回	授業事例⑥（障がい児の生活と育ち）	授業事例⑥（近隣国との友好・親善）
第8回	授業事例⑦（食と自然、労働）	探究テーマを決める
第9回	探究テーマを決める	探究レポート作成
第10回	探究レポート作成①	パネルディスカッション名簿の提示 授業事例⑦（障がい児の生活と育ち）
第11回	探究レポート作成②	パネルディスカッション①
第12回	レポート発表会①	パネルディスカッション②
第13回	レポート発表会②	パネルディスカッション③
第14回	レポート発表会③	パネルディスカッション④
第15回	講義のまとめ	パネルディスカッション⑤ 講義のまとめ

左は標準的なシラバスとして毎年度提示している内容である。昨年度は22名だったために、実際にこのシラバス通りで展開した。ところが2019（令和元）年度は最終137名と一気に増えた。そのため、発表形式を改めることにし、発表時間数を増やした。それが「実際」である。履修者が確定した第3回講義にて、右のシラバスへの変更を改めて提示した。

3. 実践事例を学ぶ本年度の授業

<第1回授業>

授業ガイダンスを行った後に、まず学生の「総合的な学習の時間」の意識調査を行った。そして、その結果は次時で報告することを予告して、学習指導要領における小学校と中学校の「総合的な学習の時間」及び、2022（令和4）年度より名称変更する高等学校の「総合的な探究の時間」の概要を解説した。また、1976（昭和51）年に民間教育研究団体の代表的メンバーが結集して作成した「教育課程改革試案」の中の「総合学習」の考えも紹介し、この時間は総合学習としての学習体験を重視することを告げた。

そうして、単なる授業感想ではなく、本時に提示した題材を通して考え感じたことを記入するものとして、以後ほぼ毎回の授業で「コメントカード」を記入させていった。その特徴的なコメントは、次時に『SG通信』として学生間で共有できるようにした。

<第2回授業>

第1に『SG通信』No.1の内容を紹介した。

まず、前時の意識調査の結果の概要を紹介した。前時の受講生100人のうち「総合的な学習の時間」を「必要」としたのは94人で、「不必要」は6人だった。「必要」で特徴的な声としては、「社会に触れ合うことができる」「調べ、発表する力がつく」「コミュニケーション

ョンに繋がる」と積極的に受け止める意見の一方で、「心と体を休めることができる」という意見もあることを紹介した。「不必要」では「無駄な時間」との捉えが主であったと紹介した。

また、「総合学習」に言及した学生のコメントも紹介した。その学生はみな、政治に迫る内容を「扱うべき」の立場で、「政治的な勉強は必要」「ぼんやりとした政治観をしっかりとしたものになりたい」「大学でも学びたい」など書き込んでいた。そして、税金やブラックバイト等を問題視して書き込んでいた学生のコメントも紹介した。

第2に、「国連・気候行動サミット」で温室ガス排出問題について発言した当時高校生のグレッタ・トゥーンベリが話題が報道されていたので、その演説内容とそれに対する賛否両論の代表的なツイートを、別紙授業通信『子ども・若者の声』No. 1として配布し紹介した。

そして第3になってしまうが、「総合学習の実践事例①」として、幻になりつつあった大根に小学3年生が目向け、詳しく調べ、引き抜いたり調理したりの体験をする中で、町の評判となり、地域の特産品にしていた筆者自身の実践を紹介した。

<第3回授業>

まず、『SG通信』No. 2の内容を紹介した。

第1に、「国連・気候行動サミット」で演説したグレッタの言動についてのコメントが多かったので、否定派と肯定派それぞれの意見を紹介した。否定派は、彼女の発言の根拠と、批判を置き換える代替案が示されていないこと、学校を休んで出席したことを批判している。肯定派は、彼女の発言の勇気を讃えたり、考えるきっかけをつくってくれたことに感謝したりする内容が多かった。

第2に、「総合学習の実践事例①」についてのコメントを紹介した。小学生の発想と行動力への驚き、大根及び地域の特産品に学生自身が関心を持ったことが多く書かれていた。また、学生自身の地元の特産品情報も書かれていたので、それも紹介した。

次いで、「総合学習の実践事例②」にして、2011年東日本大震災で町が壊滅した宮城県石巻市雄勝地区の子どもたちが、復興を推し進める地元の人々とつながり、新たな町づくり計画に参画していった、雄勝小学校の徳水博志氏の『震災と向き合う子どもたち』（新日本出版社 2018年）の実践を紹介した。

<第4回授業>

まず、『SG通信』No. 3の内容を紹介した。かの大地震は東海地区でも影響があったこと、今も避難生活を送っている方々がいる事実を忘れてはいけないこと、そうした中でもまたまた小学生達が気持ちを喪失させていた大人達を奮い立たせていったことへの感動等が多く書き込まれていたことを紹介した。

次に、「総合学習の実践事例③」として、筆者が担任した小学4年生が、代々受け継いできていた多摩川を題材にした学習をより発展させて、河口から水干（源流の始まり）までの全流域を対象に、生き物の生息状況と水質、流域の自然環境、多摩川があるからの人々の営みなどを調べ、その多摩川が汚染されていく姿を問題にし、多摩川を守れと発信していった実践を紹介した。

<第5回授業>

まず、『SG通信』No. 4の内容を紹介した。小学生が川を深く探究することで自然環境のみならず、自分達の飲み水やゴミの問題にも関心を深めたことへの驚きとともに、河川の汚染、身近な場でのポイ捨てやゴミの捨て方、近年関心が高まっているプラスチックごみ問題への関心が学生自身にも高いこと、焼却灰などの最終処分場のために造成することには学生の中でも是非があることを紹介した。

また、これまでの3つの実践事例で、小学生が探究・発信する姿に学生の関心が高まっていると感じたことから、『子ども・若者の声』No. 2として、中日新聞の「ヤング・アイズ」に掲載されていた小学生の投書を紹介した。中日新聞の読者範囲である地域の小学生も、様々な社会問題に関心を示し、発信しているのである。

次に、「総合学習の実践事例④」として、日本の戦争の歴史を通しての現代の平和のあり方を学生自身が考える授業を行った。事例としては、筆者が小学6年生を担当していたときの総合学習「沖縄」の実践を紹介した。

<第6回授業>

まず、この時期に連日トップ報道されていた大学入学共通テストにおける英語民間検定試験の導入をめぐる問題で、高校生達がtwitter等を利用して抗議の声を挙げ、ついに文科相が当面見送りを表明した中日新聞等の記事を、『子ども・若者の声』No. 3で紹介した。

次に、『SG通信』No. 5の内容を紹介した。戦争があった事実に対しては現代学生の中でも関心が高いこと、その中には修学旅行で実際に沖縄へ行き避難壕体験や学徒看護活動体験者の証言を聞いた学生もいたこと、それらを通して改めて平和の大切さやありがたさ、その日が続くことを願う気持ちが多く書かれていたことを紹介した。さらに、戦時教育の問題、戦争を二度と行わないための教育のあり方、憲法はどうあるべきかに言及するコメントもあったことも紹介した。

こうした内容を経て、「総合学習の実践事例⑤」として、小学6年生が沖縄学習旅行で実際に米軍基地を間近で見て来て考え合った、筆者の学級・学年の総合学習「沖縄」の実践を引き続き紹介した。

<第7回授業>

まず、『SG 通信』No. 6 の内容を紹介した。日本国内に米軍基地が存在することを初めて知った、沖縄で米軍基地を巡ってなぜ紛争が起きているのかを初めて理解した、という学生が多かったことを紹介した。その影響もあって、日本国内の米軍基地の存在の賛否をコメントする学生が多かったこと、賛成派は日本の安全保障への安心感が増すことや問題にしてもどうせ変わらないという考えであること、反対派は逆に日本国内に米軍基地があることで米国に敵対的な国が狙う危惧を持っていること、実際に基地がある沖縄の人々の苦悩を理解すべきであるという意見を持っていることを紹介した。また、基地問題に関心をもったからであろうか、こうした内容で探究できる総合学習の大切さや、小学生でも基地問題で探究している姿から若者である自分達をもっとしていかなくてはいけないと感じたというコメントもあったことを紹介した。

次に、「総合学習の実践事例⑥」として、近隣国との友好・親善を探究した筆者の勤務校での、日中韓3ヶ国ホームステイの実践を紹介した。「外国語」「外国語活動」が実際には英語教育になっている現実の中で、多国籍、特に近隣関係にある東アジア地域の国々の理解と友好・親善を深めることの大切さを語った。

<第8回及び第9回授業>

この2週の授業は、後半の自己探究レポート作成のために充てた。その内容は後述する。その2回の授業の冒頭で、以下3つの通信の内容を紹介した。

1つ目は、第7回授業に対するコメントの紹介としての『SG 通信』No. 7である。当時、韓国との緊張関係が連日報道されていた時期でもあったため、北朝鮮問題も含めてのコメントが多かったこと、それぞれの国の体制がどうであれ、人として関わることの大切さ、そのためにも様々な国の人たちと国際交流していくことの大切さをコメントする声が多かったことを紹介した。

2つ目は、『子ども・若者の声』No. 4である。当時、愛知県で「20か国外相会議（G20）」が行われ、各国首脳の前で愛知県の高校生が、英語で「先進国と開発途上国の間に広がる教育格差の解消」をテーマにスピーチした中日新聞の記事を紹介した。

3つ目は、『子ども・若者の声』No. 5である。ジュニア向け特集として掲載されていた「若者とデモ」と、先に紹介したグレタの言動に触発された愛知県内の高校生が「気候変動対策」を訴えてデモ行進した中日新聞記事を紹介した。

<第10回授業>

レポート作成期間を保障するために、もう1コマを使って「総合学習の実践事例⑦」を紹介した。ダウン症のAが小学1年生から在籍していた学校で、筆者自身が5、6年と担任した時の、小学校最後の運動会におけるAの参加を巡る学級会、ダウン症の子とその家族を描いた物語を読み深めた国語科の授業、そして最後の総合学習としての「命かがやく」

の実践を紹介した。

次時で、その時の学生のコメントを『SG通信』No.10として紹介した。改めて小学生達の学び方に感心したという声とともに、受講生の中には家族や友人に障がい者がいて実際に関わっていること、障がいを持つ人々を認め住みやすい社会にすべきであること、活躍の場を増やすことの声が多かったことを紹介した。

4. 学生が発信したレポートとパネルディスカッション

(1) 準備の過程

以上7つの実践事例で紹介してきた題材は、学生があまり体験することがなかった「総合的な学習の時間」の内容として提供した。高校以下の教育でも「主権者を育てる」ことを明確にした総合学習の大切さを実感してほしいこととともに、大学生であるからこそよりそれが必要であると考え、本授業はまさにその願いに合致するものであると考えたからである。

そこで、現代日本社会の主権者・有権者として、第8回授業では「今、何こそを日本社会で考えなくてはならないのか」を考えさせることに挑んだ。参考として、昨年度22名の学生が同様に書き出したテーマの一覧を示した。その上で、1人5つのテーマを授業プリントに書き出すように指示した。そして一定時間を保障したところで、着席している位置で区分けして、そのグループ内で順次回覧して全てのテーマを1枚の用紙に書き込ませた。全員が書き込めたらノートPCを用意して待機している授業者である筆者の元に届けさせ、その場で打ち込んで行った。その打ち込んでいるデータは、そのままPowerPoint画面のスクリーン上で学生が見ることができるようにした。

以下は、『SG通信』No. 8として次時で紹介できるように、授業者が●のカテゴリーに分けて改めて整理したものである。

●人格 ・差別 ・男女差別 ・人種差別 ・58種の性別 ・LGBT ・性同一障がい ・ハラスメント ・夫婦別姓 ・旧姓の使用 ●若者の暮らし ・成人20歳前 ・学生の金欠 ・若者の○○離れ ・結婚	・未婚 ・離婚 ・中絶 ・美容整形 ・ゲーム依存 ・スマホ ・A I ●環境 ・自然災害 ・異常気象 ・地球温暖化 ・ゴミ問題 ・リサイクル ・消えゆく動物 ・ウイルス	●教育・保育 ・教育方法 ・部活 ・いじめ ・子どもの将来 ・家庭環境 ・育児放棄、虐待 ・多胎育児 ・保育者待遇 ・保育士、教員不足 ・保育園騒動 ・福祉現場 ・待機児童 ●命、健康、医療	・人の作ったものが食べられない ・医療 ・高齢出産 ・ドラッグ ・安楽死 ・自殺 ●高齢者 ・介護 ・高齢ドライバー ・老害 ・次世代の老後 ・親の老後 ・年金
--	---	--	---

●労働、経済 ・ブラック企業 ・労働環境 ・働く女性 ・非正規労働 ・働き方改革 ・残業 ・過労死 ・所得格差 ・コンビニ営業時間	・人口 ・少子高齢化 ・死刑廃止 ・被災地復興 ・選挙制度 ・N国党 ・NHK ・議員の居眠り ・桜を見る会 ・障害者家族への支援	・国交問題 ・日韓関係、日韓貿易問題 ・オリンピック ・難民受入れ ・領土 ・ホームステイ ・韓国芸能	●交通安全 ・あおり運転 ・障害者ドライバー ・自動ブレーキ ・自動運転 ・ながらスマホ ・愛知の交通事故
●内政 ・政治方針 ・憲法 ・天皇 ・国債 ・税金、税率 ・キャッシュレス	●国際課題と交流 ・戦争と現代の平和 ・憲法9条 ・核兵器 ・自衛隊 ・沖縄の基地問題 ・外交問題	●表現・伝統芸能 ・デザイン ・表現の自由 ・著作権 ・SNS ・You Tube ・バカッター ・ネットへの書き込み	●その他 ・チケット転売 ・闇営業 ・暴力団 ・犯罪と人間性 ・CDの必要性 ・地域PR ・愛知の売り

2019（令和元）年度は109テーマが出された。ここから、自分が当初挙げたテーマに限らず、自分が最も関心を持ったテーマを1つ選ばせた。

(2) レポート作成からパネルディスカッションへ

各学生がどのようなテーマを最終的に選んだのか、そしてどのようにディスカッショングループを形成し、何を主テーマに討議するかが分かるように、『SG通信』No. 9で紹介した。その時の一覧表を、学籍番号の下番号と名前を削除して以下紹介する。17及び18は入学年度の西暦下2桁数字、AMは芸術学部音楽領域生、ADは同デザイン領域生、HCは人間発達学部生のことである。現代の学生が社会の何に、どのくらいの人数で問題を感じているかを明らかにするためである。

今回、パネルディスカッションでのやりとりを記録することができなかった。そのため、この論考における不十分さをつくってしまったと、今反省している。

その上で、およそどのテーマでも、①なぜこのテーマを選んだのか ②討議テーマについてどう思うか ③討議してみて感じたこと の順で、基本的に①～③までで1回以上全パネラーが発言できるよう、司会役を務めた筆者は心がけた。討議時間はパネラー数×3分を目安にした。

なお、各回の最後にコメントカードを書かせ、次時の『SG通信』で「パネルディスカッション（番外編）」として特徴的なコメントを紹介した。「他者の発言から学ぶ」ことも大事にして欲しかったし、討議では出されなかった視点でのコメントもあったからである。多くの学生はその日のディスカッションで特に関心をもったテーマを1つ選んでコメントを書いたが、中には短くてもその時間の全テーマにコメントを書く学生もいた。以下は、

パネラーの発言と発言にはなかったコメントカードでの声の概要である。

なお、討議の基になるレポートは、欠席数超過による失格者5人と1人未提出を除く95.6%の学生が作成した。これ自体にも、この授業における学生の関心の高さが示されていると考える。

<第11回授業>

17AM	部活	部活はどうあるべきか？	9分
18AM	部活		
18AM	部活		

部活動体験はみな有意義と感じていた。その上で、改善はするとして現状を続けていくべきという意見と、教員・生徒の負担軽減の観点から見直していくべきという意見で分かれた。

18AM	いじめ	いじめはどうしたらなくせるか？	15分
18AM	いじめ		
18AM	いじめ		
18AM	いじめ		
18AM	いじめ		

いじめられたり、いじめを間近で見たりした体験を持つ学生もいた。生徒同士だけでなく、教員間でもいじめがあった報道を受けて、あってはならないことでは一致していた。なお、パネラーの1人がいじめられる子にも問題があるという趣旨の発言をしたため、その後のコメントカードにはそれに対する反論もあった。「どうしたらなくせるか？」では、教員や家庭での日常的な関わり、多様性を認める指導の必要などが挙げられていた。

17AM	教育	子どもに明るい未来を拓く教育・保育とは？	15分
18AM	子どもの将来		
18HC	子どもの将来		
18HC	保育士待遇改善		
18HC	待機児童		

現代の教育のあり方に少なからず問題を感じていて、自分が親になったときを心配する学生もいた。また、自分の就職先を保育士に置いている人間発達学部生は特に働く環境を危惧していた。解決策としては国の政策に期待する声が多かった。

18AM	少子高齢化	夫婦にとって「子ども」という存在をどう見ていくか？	15分
18AD	高齢出産		
18AM	子どもの家庭環境		
18HC	育児放棄		
18HC	多胎育児		

子どもの存在の大切さについて発言、コメントされていた。特に、多胎育児に悩んで我が子を殺してしまった事件が報道された頃であったことから、新たに「多胎育児」に関心を持ったという学生がいた。

18AD	男女差別	男女差別をどこに感じる？	15 分
17AM	男女差別		
18AM	男女差別		
18AM	男女差別		
18AM	男女差別		

女性の立場から様々な差別の実態が出された。一方で、アルコールを口にしない男性客がアルコールを飲む女性よりも高い料金を払うことになってしまう「飲み放題」の設定や、「男だから」と仕事を押し付けられる逆差別もあるのではないかという指摘もあった。

17AM	夫婦別姓	夫婦は同姓がよいか？別姓がよいか？	9 分
17AM	夫婦別姓		
18AM	夫婦別姓		

賛否が分かれた。賛成派は女性の人権意識の観点、反対派は特に子どもがどう我が家を名乗るのかで困るのではないかと、現状では手続きが大変という観点に基づいていた。「考えたことがなかった」という学生が発言を聞いて関心を高めたというコメントや、「今まで賛成派だったが討論を聞いて反対派に変わった」というコメントもあった。

<第12回授業>

17AD	LGBT	性的マイノリティの人々をどう見るのか？ (その1)	18 分
18AM	LGBT		
18AM	LGBT		
18AM	LGBT		
18AM	LGBT		
18AM	LGBT		
18AM	LGBT	性的マイノリティの人々をどう見るのか？ (その2)	21 分
18AM	LGBT		
18AM	LGBT		
18AM	LGBT		
19AM	LGBT		
18AM	58種の性別		
18HC	ジェンダー		

このテーマを選んだ学生が多かったため、討議も2つに分けて行った。LGBTの生徒・学生を間近にした経験を持つ学生が多いことが分かった。そして、現代の学生は性的マイノリティの受入れは当たり前ととらえており、むしろそれを理解できない高齢世代を痛烈に批判する意見が少なくなかった。

18AM	医療	もしも大手術になったら？	9 分
18AM	医療		
18AM	医療		

実際に手術を受けたわけではないが、高齢者の増加による医療機関の多忙、その多忙に見合う医師や看護師がいないことを危惧し、安心して入院・手術できる環境を整えてほしいという声が多かった。

17AD	安楽死	もしも余命宣告を受けたらどうする？	15 分
18AD	安楽死		
18AD	安楽死		
18AD	安楽死		
19AM	安楽死		

話し合いは穏やかでも意見は対立した。賛成派は苦しんで死ぬ状況は避けたい、自分だったら家族を困らせたくないという観点から、反対派は命の尊厳、安楽死させる医師や看護師の心情を察するべきだという観点からの意見だった。このテーマでのコメントカードも多く、やはり賛否が分かれていた。

18AM	オリンピック	オリンピックで何を期待するか？	9 分
18AM	オリンピック		
18HC	オリンピック		

2020 東京オリンピックを楽しみにしている声が圧倒的に多かった一方で、準備が遅れていることを危惧する声も多かった。そのことから、開催は楽しみだけど、本当にできるのかを心配する声もあった。

17AD	消えゆく動物	地球環境をどう守るか？	9 分
18AD	消えゆく動物		
18AM	ゴミ		

自然環境汚染を共通して心配していた。しかし、その汚染をつくり出しているのは人間であることから、地球環境やゴミに対する関心を高める必要が語られた。カードでは、身近な場所で目にするポイ捨てや、分別しないで捨てられているゴミ袋を問題にするコメントが少なかった。

<第 13 回授業>

18AD	スマホ	スマホを使って よかったことと困ったことは？	15 分
18AD	スマホ		
18AD	スマホ		
18AD	スマホ		
18AD	スマホ		
18AD	スマホ	スマホをなくしたらあなたは？	12 分
18AD	スマホ		
18AM	スマホ		
18AM	スマホ		

このテーマも 2 つのグループに分けて討議した。このテーマでのコメントカードも多か

った。圧倒的に良さを指摘する声が多かった中で、SNSへの書き込みや誤った情報に流されてしまうこと、なくしたときにパニックになるほど依存が強くなっていることを心配する声もあった。

17AM	ネットへの書き込み	SNS投稿をどう見るか？	12 分
18AM	SNS		
18HC	SNS		
18HC	SNS		

パネラーの中には、実際にSNSに書き込みされて苦しんだ学生、「SNS疲れ」を感じた体験を持つ学生もいた。文字による投稿の問題とともに、過ぎたはずらを動画投稿することの問題を指摘する声もあった。パネラーの1人が発言した、嫌な書き込みは無視する「スルースキル」に感銘したとするコメントも複数あった。

17AM	著作権	自分の「表現」を どう大切にするか、守るか？	18 分
18AM	著作権		
17AD	デザイン		
18HC	デザイン		
17AM	表現の自由		
18AM	表現の自由		

個人の表現の尊重は当然としていたものの、音楽やデザインを学ぶ際に接した作品に影響を受けやすく、どこまでが許容の範囲かの線引きが難しいという声もあった。また、その当時大きな社会問題となっていた「愛知トリエンナーレ展」に実際に関わっていた学生がいて、中止されたことに対しての激しい怒りの発言もあった。

18AD	NHK	NHK受信料の全家庭徴収をどう見るか？	12 分
18AD	NHK		
17HC	N国党		
18AM	N国党		

政治的中立を確保する観点から、1政党の是非に触れることは避けて、討議テーマに徹するように司会者として努めた。実際に強引な受信料の取り立てに遭った学生が複数いた。近年はIT化が進み、TVを持っていても見る学生が減って来ていることが分かり、それ故余計にNHK受信料の強引な請求に怒りを持っていた。

18AD	若者の〇〇離れ	現代の若者はダメなのか？	12 分
18AM	ゲーム依存		
18AM	成人 20 歳前		
17AM	人が作ったものが 食べられない		

現若者世代が否定的に言われることをよく思っていない。特に高齢世代が「今の若者は」という言い方をするのに反発を持つ学生が多かった。中には、お金がないが故にそうしているのに批判的な言い方をされるのに憤っている学生もいた。その一方で、自分達の生き

方もこれでよいかと自問する学生もいた。

<第14回授業>

17AM	AI	AI及び 自動化は人間未来に有益か？	21 分
17AM	AI		
17AM	AI		
18AM	AI		
18AM	AI		
18AD	自動運転		
18AD	自動運転		

討議を通してこのテーマへの関心が一層高まったと感じる。それは聞いていた学生のコメントカードの多さによる。AIは人間生活を豊かにすること、必要以上にAIによる問題に過敏になることを批判する意見もあった一方で、AIが暴走した場合やAIに人間が支配される可能性に危惧を持った学生も少なくなかった。AIと人間とのほどよい関係を大切にすべきとのコメントが多かった。

18AM	高齢ドライバー	「高齢者」は迷惑か？	24 分
18AD	高齢ドライバー		
18AM	高齢ドライバー		
18AM	高齢ドライバー		
18AD	高齢ドライバー		
18AD	介護		
17AD	老害		
17AD	老害		

高齢化社会が進む情勢に加えて、高齢者ドライバーによる交通事故報道が相次いだ時期であったこともあり、改めて「老人」をどう見るかで激論になった。現若者世代に対する高齢世代の関わりの違和感から「老害」というストレートな表現で意見する学生もいた一方で、身近に祖父母がいて教えられたり育てられたりして今の自分がある、だから介護が必要になった今も温かく接しているという体験を語る学生もいた。コメントカードでは、身近な祖父母と、見知らぬ老人では感じ方が違うという声も複数あった。

18AD	犯罪	犯罪者はどう処罰されるべきか？	21 分
18AD	犯罪		
18AM	犯罪		
18AM	犯罪		
18AM	犯罪		
18AM	犯罪		
18AM	犯罪		

発言が進むうちに犯罪者に対する死刑を巡っての討議に焦点化していった。「安楽死」の

賛否がそのまま死刑に対しても同様であると感じた。要は「命」をどう考えるかにあるように思えた。

18AM	チケット転売	転売は合法か？	12 分
18AD	チケット転売		
18HC	闇営業		
18HC	闇営業		

「闇営業」は、事件を解説する発言に終始してしまう傾向があつて、議論を深めるには至らなかった。一方、「チケット転売」は、実際に転売チケットを購入した学生の、不当に買い占めたのに売れなかったのであろう多数の空席ができていた場面、逆に買いたいのに買えなくて困っていた時に救われたことの体験の両方が証言され、賛も否も両方受け止める感想が多かった。

<第 15 回授業>

17AD	過労死	ブラックバイトで長時間無賃労働を 強いられたらどうする？	12 分
18AD	過労死		
17AM	過労死		
18AM	過労死		

バイトの時間を過ぎているのに掃除や片付けを無賃でさせられたり、スタッフが足りなくて心身を消耗している店長を間近で見たりして、「過労」は他人事ではない現実が、学生自身の体験から多く語られた。それに対して抗議や改善を申し出た学生もいたが、結局何も変わらない無力感を感じたという学生もいた。

18AM	自殺	「自殺」という行為をどう見るか？	9 分
18AD	自殺		
17HC	自殺		
17AM	中絶		

「自殺」そのものよりも、「自殺」に追い込んでしまった学校や会社の環境を問題にする発言やコメントであった。また、「妊娠中絶」を語った学生の話から、命の尊厳を守ることとは大前提として「望まない妊娠」「経済的貧困家庭での妊娠」「障がいが見えなくなった場合」に中絶するのは権利とする意見と、どんな理由があろうと命の尊厳を守るべきという意見で分かれた。

18AM	キャッシュレス	安心できる家計をどう維持するか？	12 分
17AM	キャッシュレス		
17AD	税率		
18HC	税金		

2点で意見が分かれた。1つは「キャッシュレス」の是非。賛成派は購買の際の効率の良さ、反対派は今完全実施するのは性急という意見や、システムのエラーやデータ漏洩による悪用を心配する意見だった。もう1つは「税率」。高齢化社会の中で「消費税 10%は

仕方がない」という意見と、「無駄な使い方をしているなら減税してほしい」という意見の双方があった。

18AM	憲法9条	今の日本の政治をどう考える？	18分
17AM	桜を見る会		
18AD	政治方針		
17AM	上級国民・下級国民		
17AM	障害者家族		
18AM	難民受け入れ		

個々の関心が全く違うものを無理に1つのグループにしたので、お互いの問題意識を語り合うにとどまった。ただ、上3人の学生はかなり現政権に対して問題意識を持っていて、ストレートに批判する発言もあった。個々人の意思は尊重する立場から、特に発言を制止することはしなかった。政権にはっきりと物を言う勇氣に感動したというコメントも複数あった。

18AD	美容整形	整形美容をどう思う？	18分
18AM	美容整形		
18AM	美容整形		
18AM	美容整形		
18AM	美容整形		
18HC	美容整形		

実際に整形手術を受けたことを証言した学生もいた。手術が自分には合わなかった場合や費用の問題を心配する声もあった一方で、「性格や人生が明るくなる」として肯定的に受け止めている学生が多かった。

5. 大学生にとっての「総合的な学習」の意義の考察

最終回に書かせたコメントカードでは、パネルディスカッション⑤について言及するものがほとんどだったが、中にはこれから紹介するように、15回を貫いてコメントを書いた学生がいた。そのコメントは、今回の実践を分析するのに貴重であると捉え、それを活用して論考をまとめる。

(1) 総合学習を大学教育にまで貫く必要性

- ① (17AD) 「(前略) 総合学習は人生の基盤を創る中で大切な時間だったのかなと思う。」
- ② (18AD) 「今回の総合的な学習は、とても有意義な授業になりました。社会に関心を持つこと、自分の意見を持つことはこの先も必要だと思うので、これからもこの授業で学習したことを自分の生活に活かしていきたいと思います。」
- ③ (17AM) 「人前で話すと自分の意見がしっかりかたまるし、人に理解してもらえるように話すことによって、自分も自分の考えについて再度理解することができた。(後

略)」

- ④ (18AM) 「色々なテーマでの発表が聞けて楽しかったです。今回学んだことで、改めて自分の生き方を考えて、ものごとの課題を解決できるようにして行きたいです。」

以上の学生のコメントには、「人生の基盤」「社会に関心を持つこと、自分の意見を持つこと」「自分の意見がかたまる」「自分の生き方を考えて、ものごとの課題を解決できる」という表現で、総合学習のもつ意義が書き込まれていた。

- ⑤ (17AM) 「今回の発表のために調べることでできたデータや話が多くあり、たくさんの収穫があったのはよかった。卒論に向けて、データやパソコンなどで調べ上げたことだけでなく、学校やカウンセラー、家族側、兄弟側の話など、様々な視点から調べていきたい。」

この学生コメントからは、総合学習の学び方は卒業論文の深め方にも影響を与える可能性があることが読み取れる。

いずれにしても、学生自身のその後の学び方や生き方にも影響する総合学習を体験できる本学の「総合的な学習」設置の意味は大きい。

(2) 学生同士が聞き合って学び合う関係の構築

- ① (NH) 「今日、テーマを考えてみて、自分が浮かんだものと、周りの人が思い浮かんだものが違って、すごく面白かったです。たくさんのテーマの候補が出ていて、今の日本の社会問題がこんなにもたくさんあるのだと思ってびっくりした。」(この感想のみイニシャル表記で掲載していた『SG通信』No. 8からとった)
- ② (18AM) 「この半年で、色々な人の色々なものに対する考えが聞けて良かったと思いました。」

大学における授業改革のスタイルとして「アクティブ・ラーニング」が言われている。しかしその場合の事例を見ると、あくまでも参加型のスタイルにとどまっている。本授業では、そうした「参加」にとどめず、学生自身の本音に迫り、本音が発揮できる授業として挑んだ。1人5つのテーマを考えてみてそれを全部明らかにしてみること、そしてパネルディスカッション形式で意見発表し合う場面を設けてみたことは、筆者独自の取り組みである。そのことで、学生同士で多くの考えに触れることができたと考える。とかく大学では、授業者である教員から学ぶ一方向型の授業が多い。そうした中で、大人数の授業であっても学生同士が意見を交換し合う授業場面を設定することは可能であることが、明らかになったのではないだろうか。

- ③ (18AD) 「今回の講義に参加できてとても良かったと感じました。近年ネットが普及し、個人の意見交換がしやすい時代にはなりましたが、直接意見を聞いたり話したりすることができるのは貴重だと思いました。社会的な問題に関心や意見を持っています。」

も、友達同士でそれを話すきっかけがなく、少し照れくさくてなかなかできないので、この授業で考えたり、発表したりできたのが、とても楽しかったです。半年間ありがとうございました。」

現代社会の中では本音で話すことが困難になってきていて、特に若者の中では特別な気遣いがあるとも言われている。日常の会話でも本音が出しにくい中で、政治に関してとなると余計に話しにくい風潮がないだろうか。そうした社会状況の中で、授業の中での活動故に特別な気遣いもなく、堂々と社会的政治的な問題を調べ主張していける時間があることが改めて大切であると感じた。

(3) 「主体的対話的で深い学び」の実体験

(17AM)「私は、この鎌倉先生の「総合の時間」を、もし自分が教員になり、総合の時間を受け持つ立場になったらという感じで受けておりました。総合学習という時間に対しての考え方、探究する題材の見つけ方、生徒との付き合い方、他にも様々勉強になり、私の今後の人生に生きると感じました。また、今日返ってきた自分のレポートにも驚きました。こんなにキレイに提出物をまとめて返して下さった方は、大学の中でももちろん初めてです。小中でもここまでして下さる方はいませんでした。私が受けた感想は、ここまで見て下さるなら、もっとキレイに字を書き、内容を濃くすればよかったと思いました。今後の大学人生にも影響を与えて下さった総合の時間に感謝します。」

「キレイに提出物をまとめて返して」というのは、最終的に13枚書いたコメントカードを全て1人ずつの台紙に貼り、合わせて探究レポートを綴じて返したということである。コメントカードの内容から、教職を志していると思われる学生であろう。冒頭にも触れたが、筆者は本授業を「小学校・中学校・高等学校教員を目指す学生にとっては、「総合的な学習」を本格的な総合学習として展開できる教員になるための授業イメージをつくる。」ことにも心がけてきた。教科指導法の授業においては、優れた教材の紹介やその活用の仕方、指導案の作成などの解説が一般的に行われる。そうした授業のあり方も大切にしながら、もう一方で授業者である教育系大学の教員が、「主体的対話的で深い学び」とはどういうものかを学生自身が実体験して取り込めるような直接的指導の授業を展開していくことも必要ではないだろうか。

(4) 有権者としての学生の意識化に迫る授業

- ① (18AM)「討論してみて、自分達と同じ世代でも、こんなに深く日本の政治に興味を持っていることに驚きました。やはりそれぞれの問題をもっと深く国民の意見を取り入れながら、政党の中で話し合っ欲しいと思います。」
- ② (18HC)「政治の話、論議を聞いたとき、桜を見る会や政治について聞いて関心を持

ちました。自分も今の日本で良いなと思う政党や政治はないです。しかし、関心をもったので調べてみたいと思いました。」

(3) までに見てきた本授業での成果があった一方で、本論考のテーマである「有権者である大学生」としての自覚がどこまで高められたかと言えば、まだまだ不十分であったと言わざるを得ない。確かに現代日本社会の現実に向け、関心を高めることはできた。しかし、探究レポートを読んだり、パネルディスカッションでの発言を聞いたりしていても、自己解決型の捉え方に留まっていたのではないかと感じる。

「自己解決型の捉え方」とは、自分達または周囲の意識や行動によって解決できるという認識のことである。しかし、本稿4(1)で紹介した学生が考えた現代社会の問題の多くは政治に直結した問題である。にもかかわらず、ストレートに政治のあり方をテーマに選択した学生は少なかった。また、解決策として行政や議会、司法の改革に迫る意見も多くはなかった。

高校以下でも「模擬投票」活動体験で「有権者意識を育てる」取り組みが広がっている。投票への行動意識としての気軽さが体験できることも必要ではあるが、それ以上に肝心な事柄として、有権者として現代社会を見つめ、どの候補者、またはどの所属・政党に投票することが、さらには自分がどう社会に対して直接アクションすることが、自分の願う社会の実現につながるのかを考えて行動できる学生に育てていくのか、ここに迫る取り組み方が必要だったのではないだろうか。そのことが政治関心を高め、本当の意味で各種選挙での投票行動を促すことになるのではないだろうか。

以上のことから、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」では、児童・生徒・学生自身が社会問題を探究していく総合学習としての授業のあり方が必要ではないだろうか。別稿「民間教育研究団体が結集して初めて提唱した「総合学習」論の考察—「総合的な学習の時間」を充実させていくための考察の試み—」(名古屋芸術大学教職センター紀要第6号)をご参照いただきたい。

「戦争の歴史と現代の平和」を考える総合学習②

- 総合学習の事例⑤では、「沖縄」を題材にした小学6年生の社会科と総合学習の第2回目として、実際に小6生が学んだ、沖縄にとっては現在も直面している「米軍基地」についての歴史的背景と現状とを紹介しました。
- 米軍基地を巡って議論になる時には必ずと言っていいほど、日本は「戦争をしなさい」と国際法とどう考えるのか、沖縄だけに基地の負担が重くのしかかっていることをどう見るのか、現在の日米地位協定をどうとらえるのか、基地があることで仕事があるのか・基地があるから仕事が少ないのかなどが議論になります。今回のミニレポートでもそうした状況が見えます。敢えて様々な意見を紹介します

＜基地を巡っては問題を感じる＞

- ・私は今までそういう条約を結んだのだから、「米軍は沖縄から出ていけ」という運動があることに批判的だった。しかし、多くの問題が出る以上、現地の人達が追いついたくなる気持ちも、今日の授業を受けて分かった。(ST)
- ・元々その土地にいた人達を銃で脅して崩れた大地を整地し、自分達の土地として使うような行動は、人間のエゴのようなものが見えて、嫌悪感を抱きました。(OS)
- ・小学生のうちから沖縄の基地や戦争の問題について触れることは良いことだと思います。基地が必要かどうかは今後の対応次第のような気がします。戦争をしないと断言できるなら要らないのでは？ (IA)
- ・沖縄の問題は誰かが我慢をするしかないと思っています。でも、その「誰か」は、国民全員で平等にしたいと思っています。(MN)
- ・今日の沖縄の授業では、高校の修学旅行を思い出しました。米軍基地は、この国が戦争をしてしまった過去の歴史に始まります。たくさんの方が戦って、命をおとした罪の重い出来事です。その歴史にどう向き合うのか、もっと国で話し合う機会、考える機会と、国民と政治家との気持ちの寄り添いが必要だと思います。(AA)
- ・戦争と言うのは必ず政治と隣り合わせで起きる。自分の意志と知識を持って判断しなければ、大変な偏見意識をもってしまいうように思いました。股開きに頼らず、過去に起きたこと、現在の問題に向き合わねばと思いました。(MH)
- ・沖縄の基地は、アジアでの紛争やもしも日本で戦争が起きたときに守ってもらうためにある。でも、そのせいで沖縄の領土や沖縄の人達の生活を犠牲になるのは違うかなと思います。世界の様々な国との関係性や日本の立ち位置は大切だけど、日本の国民のことを第一に考えられる、そんな国であってほしいです。(SH)
- ・沖縄の基地のことは昔から話題になっていたために、前から少し関心があるのだ

が、私は色々な理由があるにせよ、勝手に犠牲になる人をつくってよいのかなと思う。一人一人の安否も確保していない人が、何を守れるのだろう。まずはそこから考えていかないとよくないのではと思う。(MS)

＜基地があることでの安心感＞

- ・家の近くに自衛隊の基地があり、戦闘機が家の上空を飛ぶことと体が当たり前になっている。もしも他の国が襲めてきたとしても守ってもらえるという安心があるのので、基地をなくすことには反対です。別に音がうるさいと言われている戦闘機でも、慣れてしまえば平気なので、良いと思います。(AS)
- ・沖縄の基地問題は前々からの大きな問題というのは知っていた。私は沖縄に基地があってもいいと思います。建前でも日本は重を担っていないので、有事の際にはやはり米軍の力を借りる必要があるし、災害時にも助けてくれるときもあるので、共に協力していきたい。(HK)
- ・沖縄の基地問題は以前から知ってはいるが、なくすと言うのは難しいと思う。犯罪に対してや、マナーの改善を少しでもよくすることを考えるべき。基地があるから仕事がある人もたくさんいると思うからである。(SS)
- ・沖縄の基地のことでは、日本はアメリカに支えられているので、なくすととなるとアメリカとの関係が崩れるから、自分ではなくさなで欲しいと思う。(IK)
- ＜身近なところでも無関係でなかった＞
 - ・米軍基地についての話になると、大きく取り上げられる問題点が多いこともあり、いつも沖縄の普天間基地のことしか考えられず、他の基地についてあまり目を向けていなかった。こんなか、県営名古屋空港にも基地があったことを知り、とても驚いた。身近に感じずから動くことは恥ずかしいけれど、もっと知りたくなった。(TU)
 - ・この授業を受けて、私も知らないことを知れた。私は知多半島に住んでいるので、この辺の空港はセントレアと同じイメージじゃなくて、県営名古屋空港（旧小牧空港）のことは大学生になって初めて知りました。だから、県営名古屋空港はしょぼいイメージがあったけど、米軍基地だった背景や、今も戦闘機の試験が行われていることを初めて知って驚きました。(TH)
- ＜どうせ変わらないのでは＞
 - ・米軍基地の問題はずっと言われてきたことだが、今後もこの問題が解決されることはないように感じる。日本が武力を持たないという状態のまま米軍がいなくなるのは、強い後ろ盾を失うことに繋がると思う。だから最後のビデオで熱く語っていた男の子は、自分なりの強い考えを持ったのだなと感じた。(TA)
 - ・正直、今の日本で政治の語がとてもしにくいと思う。自分も政治の話をするのがとても嫌いで、あまり目を向けたくない。(FS)

＜若者が頑張らなくてはい＞

- ・最後のビデオで思ったことは、自分は小学生の頃まで真剣に考えていなかったというところ。今思うと、しつかり取り組まなきゃだっただなと思った。(IK)
- ・沖縄についてはまだまだたくさん考えなくてはいけないことがあるなと思いました。最後に見た小学生達の討論は、小学生とは思えないくらいで本当にびっくりしました。(UM)
- ・自分より小さい子どもが戦争について熱く語っているのを見てビックリした。あの動画を見ると、授業の前半に扱っていた「高校生が政治について話し合うのが適切なのか？」なんて言う必要がないんじゃないかと思った。投票率も下がって、世の中が政治に関心を持たなくなってきたからこそ、若い人が政治や戦争について考える機会を大切にすべきだと思う。(KS)
- ・最後に見た小学生達のディスカッションで、こんなに自主的に自分の考えを言合えるのかと大変驚きました。沖縄の基地問題は、戦後から74年経っても今でも変わらずに解決できない問題であることを改めて痛感しました。同じ日本国民として敏感に情報を得ていると思います。(IM)

＜舞台を通して平和を考える＞

- ・戦争と飛行機のお話ということで、私は今、戦争のテーマの舞台の稽古に出ています。だからすごく身に染みます。その舞台は「天回」がテーマなので、少し違います。心がしずしずと来る話です。忘れないようにすることが大切だなと思います。(HT)

＜ここでも総合学習のあり方を感じる＞

- ・講義の最後に見た映像。あれこそが本来の総合学習に見られるべき光景だと思う。小学生達が自分で見て調べ、感じて学んで発言する。今の総合的な学習では、ただカリキュラムに沿って学習が行われるだけだから、もったいないと思う。(AM)
- ・社会科の歴史学習では用語や時代の流れを学ぶだけで、話し合いをあまりしなかった。でも、今日の映像を見て、話し合いができるのが総合学習のいいところだなと思いました。(SS)

●この通信も6号を数えますが、とても気を使っているのは、同じ人の意見ばかりが登場しないことです。私は名表を持っていて、誰が何号に乗ったかをチェックしています。すでに数人、どうしても載せなくて2回目か載っている人がいますが、今受講生の役120人のうちのほぼ8割の人が1回以上取り上げてきています。まずは全員分掲載を目指しています。ぜひ、受講して感じた確かな自分の意見を、今日も「ミニレポート」に書き込んで下さい。

子ども・若者の声

NO3

2019. 11. 08 (鎌倉)

①高校生の政治話」に対しての前文科省ツイート

●18歳の高校生が「屋敷の時間に政治の話をした」とツイートしたら、前文科相が「こうした行為は適切でしょうか」とリツイートしたことに対し、怒りの声が挙がり、新聞報道されました。18歳選挙権が認められた日本で高校生が政治話をするのに対しての高校生の考えが、中日新聞で特集されています。

2019年(令和元年)10月6日(日曜日) 第14

marumaru

高校

政治に

政治に政治の話をするのはおかしい、という意見が、18歳選挙権の導入をめぐって、SNS上で広がっています。

「政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。」

「政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。」

高校生も興味あり！

政治に興味がある高校生は、政治の話をするのは、おかしい。政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。

「政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。」

「政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。」

現実にはあまり話さない

政治に興味がある高校生は、政治の話をするのは、おかしい。政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。

「政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。」

「政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。政治の話は、大人の世界の話。高校生が政治の話をするのは、おかしい。」

②高校生の声で民間試験活用入試が中止に

●文科省が進めようとしていた大学入試共通テストでの民間英語検定試験導入に、全国高等学校長協会が異議を求めていますが、高校生達もネット上や国会集会で意見を求める声を発しています。ついに11月2日文科相は断念表明しました。

2019年(令和元年)11月2日(土曜日) 第15



「身の丈発言は格差助長ってわかってる?」

英語民間試験見送り 活用中止も選択肢に

24年度めと新制度
今年度は、民間試験の活用をめぐって、文科省は「身の丈発言」をめぐって、格差を助長する恐れがあるとして、活用中止も選択肢にしている。

高校生らネットで拡散「声届いた」

英語民間試験の活用をめぐって、文科省は「身の丈発言」をめぐって、格差を助長する恐れがあるとして、活用中止も選択肢にしている。

英語民間試験の活用をめぐって、文科省は「身の丈発言」をめぐって、格差を助長する恐れがあるとして、活用中止も選択肢にしている。